



SIMOT Research Center NEWSLETTER

No.28 2008.1



東京工業大学 インスティテューショナル技術経営学研究センターニューズレター

目次

	ページ
● トピック	ノイライター博士 Public Welfare Medal を授与 1
● 追悼	植之原道行先生ご逝去 2
● イベント報告	アジア地域における国際的産学官連携シンポジウム 3
	研究・技術計画学会 国際問題分科会 1月例会 3
● 海外活動報告	IFIP 国際学会 Best Paper Award 受賞 3
● イベント予定	研究・技術計画学会 2月例会 3
	SIMOT 第4回年次国際シンポジウム 4
● 連絡先	4

トピック

ノイライター博士米国科学アカデミー Public Welfare Medal 授与



SIMOT リサーチセンター評価委員であり、AAAS (American Association for the Advancement of Science) 科学技術安全保障センター 所長のノーマン・ノイライター博士に、2008 年度 米国科学アカデミー Public Welfare Medal が授与されました。米国国務省時代、国務長官の科学技術アドバイザーとして米国科学分野の発展・国際協力の進展に貢献したことが評価されたものです。

同メダルは、毎年、米国科学アカデミーから科学の応用分野において顕著な貢献を成した研究者 1 名に贈られる、同分野における最も栄誉ある賞のひとつです。

ノイライター評価委員には、昨年度の SIMOT 国際シンポジウムにおいて「1980 年代、90 年代における日米半導体貿易摩擦からの教訓」についてご講演をいただきました。また、招聘を機に SIMOT の研究コンセプトに共感され、AAAS2008 年学会(2008.2.15-19)にて SIMOT 関連セッションの申請を後押しして下さい、同学会にて SIMOT リサーチセンター長 渡辺、および、同じく SIMOT 評価委員のブランスコム ハーバード大学 名誉教授等と共に企画・発表を行う予定です。

SIMOT は、同委員の栄誉を慶祝申し上げると共に、今後とも変わらぬご指導を期待するものです。



Public Welfare Medal
© National Academy of Science

追悼

去る12月19日、多摩大学名誉教授、元 NEC 副社長植之原道行先生がご逝去されました。植之原先生は、SIMOT リサーチセンター評価委員に名を連ね、SIMOT 拠点の第一回国際シンポジウムにおいては、「戦略的技術経営(MOT)のすすめ 市場と技術の相関が読める人材の育成」について豊富なご経験に基づくご講演をいただくなど、SIMOT 拠点として格別のご指導・ご鞭撻をいただいております。

改めて、植之原道行先生のご生前のご厚情に深く感謝し、哀悼の意を表するとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。

第一回 SIMOT 年次国際
シンポジウムにて



● 植之原道行 SIMOT 評価委員をしのぶ

中原 恒雄 (SIMOT リサーチセンター評価委員長)



植之原道行先生は、正に日本を代表する研究者であり、研究管理者であり、また勝れた技術経営者として広く世界に知られた方でありました。米国ベル研究所を経て NEC 副社長として技術経営の手腕を存分に発揮されました。私個人としても広く公私にわたって長らく親しくお付き合いを頂いて参りました。

先生は未だ実力的には壮年期であられるのに、幽明境を異にされたのは誠に残念至極であります。SIMOT にとっても、日本にとっても、世界にとっても大きな損害でありました。

The Science of Institutional Management of Technology としましては、植之原道行先生の遺志を継いで、立派な日本式経営の普及に精進して頂くのが先生への何よりの供養と存じます。衷心より先生のご冥福をお祈り申し上げます。

ノーマン・ノイライター (SIMOT リサーチセンター評価委員)



植之原道行先生は、通信技術と半導体に象徴される今日のエレクトロニクス時代における先駆的な巨魁でした。鹿児島島の貧しい農家の第9子として生を受けた先生が、数々の顕著な業績を残され、エレクトロニクス業界のグローバルリーダーである NEC の研究開発を指揮するに至ったその生涯を振り返ると、実に感慨深いものがあります。

先生とは、日米両国政府が共同で設けた日米科学技術協力協定の施行にあたる諮問委員会である Joint High Level Advisory Panel で深く関わりました。先生は同委員会でも精力的に活動され、それは NEC を辞められてからも変わりませんでした。最後の会議における先生のご発表は今でも鮮明に覚えています。そこで先生は、インターネットの負の側面、つまりこの新たな通信技術が破壊的・不道徳な目的に悪用・誤用された場合の危険性の大きさを先駆的に指摘し、我々は一様に驚きました。

こうした社会的な問題意識の広がりは今でこそ当たり前ですが、先生はその晩年において既にそれを予測し、懸念を抱かれていたという事です。偉大な技術者に留まらず、偉大なビジョナリーを世界は失いました。

イベント報告

アジア地域における国際的産学官連携シンポジウム (2007年12月20日 東工大デジタル多目的ホール)

産学連携推進本部の主催、SIMOT リサーチセンターの母体のひとつである東工大大学院イノベーションマネジメント研究科の共催により、第3回国際産学官連携セミナー「アジア地域における国際的産学官連携シンポジウム」が開催されました。グローバル化の急速な進展の中、国際的産学官連携の推進に大きな期待が寄せられており、大学のイニシアティブが期待されています。その推進に当たっては、アジア各国の異なる文化、歴史、言語の中で、相互理解のためのコミュニケーション、人的ネットワークの構築を通じて、価値観、感じ方を如何に共有していくかが重要です。本シンポジウムでは、アジア各国における産学官連携の現状および今後の方向性等について、SIMOT リサーチセンター員 田中義敏准教授を始め、中国・韓国・タイ・ベトナム・フィリピンの専門家が講演を行いました。産業界を中心として参加者は184名に上り、活発な意見交換がなされ、同時に、アジア主要国における産学官連携に関する情報共有とネットワーク形成の具体的なステップを探る機会となりました。



携帯電話使用ユーザの使用状況調査、携帯電話の危険性とユーザの意識レベルのギャップを埋める予防法の検討 研究・技術計画学会国際問題分科会1月例会 (1月16日 東工大 百年記念館)



今次例会では、東京大学の西村由希子先端科学技術研究センター助教、および大学院 情報理工学系研究科の西村邦裕助教 両氏に講演していただきました。両氏は、携帯電話の普及・技術革新による「ケータイ社会」の未来像およびそこに含まれる危険な側面について、政府・事業者・消費者と共に研究活動・社会実装活動を展開しています。「資産化」、「パスポート化」、「多重世界のドア化」というケータイ社会の3つの未来像を示され、そこでの課題およびその解決法について最先端事例を挙げながら解説していただきました。また、「ケータイ」の社会実装の具体的な活動の紹介や、ケータイ利用の国際状況比較など、本講演の内容は、携帯電話に象徴されるユビキタス社会を構成する科学技術の社会移転におけるマネジメントについての理解を促進するものであり、SIMOTの研究課題である「イノベーションとインスティテューションの共進化」に対する具体的な示唆を得ることができました。

「ケータイ」の社会実装の具体的な活動の紹介や、ケータイ利用の国際状況比較など、本講演の内容は、携帯電話に象徴されるユビキタス社会を構成する科学技術の社会移転におけるマネジメントについての理解を促進するものであり、SIMOTの研究課題である「イノベーションとインスティテューションの共進化」に対する具体的な示唆を得ることができました。

海外活動報告

SIMOT 若手研究者 IFIP 国際学会 Best Paper Award 受賞 (2007年10月14-16日 北京)

SIMOT 若手研究者 Li Bing は、IFIP (International Federation of Information Processing) 2007 国際会議にて、“A Hybrid Approach for Business Process Verification” とのタイトルで発表を行い、見事 Best Paper Award を受賞しました。本会議は、世界から、情報システムに関するビジネス及びアカデミアの専門家が集結し、情報交換を行い、現在の斬新な研究をそれぞれの分野に提供する国際学会の年次大会です。



最近の動き

海外出張

渡辺 2月15日～19日 米国・ボストン (2008AAAS: American Association for the Advancement of Science 米国先端科学学会 年次学術大会でセッション企画・発表)

(注) AAAS (American Association for the Advancement of Science) は、米国の先端科学研究分野の包括学会としては、最も権威があるもので、SIMOT 評価委員のブランスコム ハーバード大学名誉教授の慫慂により、SIMOT 関連セッションの申請が採択され、同教授および本誌巻頭で紹介したノイライター評価委員等と共に企画・発表するに至ったものです。

イベント予定

研究・技術計画学会 国際問題分科会 2月例会

日時 2月5日(火) 18:00～20:00

場所 東京工業大学 百年記念館 第1会議室

テーマ ハイブリッド型日本の経営進化 - インスティテューショナル技術経営学への示唆

講師 宮島 英昭 氏 (早稲田大学商学部教授 高等研究所副所長)

2008年1月24日付
日本経済新聞「経済教室」にて
宮島先生の特集が掲載されています。

第4回 年次国際シンポジウム

日時 2月28日(木)、29日(金)

場所 東京工業大学 大岡山西9号館 デジタル多目的ホール

テーマ イノベーションとインスティテューションとの共進化ダイナミズムの解明

プログラム

I. 2月28日(木) (同時通訳付)

- 9:15 開会
 9:20 研究科長挨拶 肥田野 登 (社会理工学研究科長)
 9:30 講演 アイノ・サリネン
 (フィンランド・ユバスキュラ大学学長)
 大学、イノベーションおよび競争力
 フィンランドの事例研究
 10:10 講演 デービッド・ブレイクリー
 (Director of Technology Strategy, IDEO)
 イノベーションに向けた文化の醸成
 10:50 研究報告(第1軸)
渡辺 千仍 (東工大経営工学教授、SIMOT 拠点リーダー)
 イノベーションとインスティテューションとの共進化: 日本型共
 進ダイナミズム - ハイブリッド技術経営による「東西」の融合
宮崎 久美子 (東工大 IM 研究科教授)
 イノベーションシステムとインスティテューションの進化
 C.G. ブラウン(米国ペーパーデザイン大学准教授:
 共同研究者)
 12:40 ポスドク・スーパードクターセッション
 14:00 学長挨拶 伊賀 健一 (東京工業大学学長)
 14:15 研究報告(第3軸) -
木本 忠明 (東工大 経営工学 教授)
 チッソの技術開発と Institutional なもの(社会的諸制度の構造)
山崎 正勝 (東工大 経営工学 教授)
 日本の基礎科学振興政策
 15:25 コーヒーブレイク
 15:40 研究報告(第3軸) -
蜂谷 豊彦 (東工大 経営工学 准教授)
 日本におけるアクティビズムの台頭と買収防衛策の導入
鍾 淑玲 (東工大 経営工学 准教授)
 中国における台湾食品メーカーの製販統合型経営
 16:50 **菊池 隆** (東工大 SIMOT 特任教授)
 製造業のサービス化・ブランド化
 17:25 閉会
 18:00 レセプション (参加費: 2,000 円) 副学長挨拶 牟田 博光 (東京工業大学副学長)

II. 2月29日(金) (同時通訳付)

- 9:15 開会
 9:20 副学長挨拶 伊澤 達夫 (東京工業大学副学長)
 9:30 講演 ジョン・ナイツ
 (VP, Business Development, Palo Alto Research Center)
 シリコンバレーにおける地域インスティテューションと
 そのイノベーション環境へのインパクト
 10:10 研究報告(第2軸) -
圓川 隆夫 (東工大経営工学教授、SIMOT サブリーダー)
 オペレーションズマネジメントと文化
曹 徳弼 (慶應大管理工学教授、SIMOT 特任教授)
 社会調和共進型 SCM
 11:20 研究報告(第2軸) -
田中 義敏 (東工大 IM 研究科准教授)
 経営に資する知的財産活動
佐伯 とも子 (東工大 IM 研究科教授)
 バイオベンチャーの知的財産活用
 12:30 ブラウンバッグ・セッション - SIMOT 教育の共進化
 13:40 研究報告(第2軸) -
飯島 淳一 (東工大経営工学教授)
 SOA は必然か?
妹尾 大 (東工大経営工学准教授)
 ワークプレイスとインスティテューション
 14:50 コーヒーブレイク
 15:00 パネル・ディスカッション : **渡辺 千仍**
 (総括レビュー: SIMOT の起点・展開・展望)
 (ディスカッション)
渡辺 千仍、圓川 隆夫、飯島 淳一
木本 忠明、蜂谷 豊彦
 (コーディネーター)
菊池 隆
 17:30 閉会

シンポジウムに関するお問合せは、下記発行元連絡先までお願いします。

● ● 発行 ● ●



東京工業大学 21 世紀 COE プログラム
 「インスティテューショナル技術経営学」SIMOT 事務室

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 W9-51
 東京工業大学大学院社会理工学研究科経営工学専攻内
 西 9 号館 208B 号室

TEL: 03-5734-2936 FAX: 03-5734-2250

Email: yoshino.m.ad@m.titech.ac.jp

URL: <http://www.me.titech.ac.jp/coe/index.html>

編集者: 菊池 隆